



ボラン・て

7月

「ボラン・て」の「て」は、つなぎあう人と人の「手」。手を借りたり、貸したりするためのボランティア情報をイメージして名づけました。

地域づくりの最前線 ～そのチャレンジ！応援します～



wacca代表の
佐藤 一人さん(左)、
黒澤 美花さん(右)。
視覚障害者を中心とし
た情報交換会をおこ
なっています。
詳細は2面をご覧ください。

見えない見えない世界を
“Wacca わか”で
つなげよう

【メッセージ代筆】
杉並ボランティアセンター職員

【特集】wacca（わか）視覚障害者情報交換会・杉並

障害がある人もない人も まるごとインクルーシブ勉強会

3面・・・センターからのお知らせ

裏面・・・子ども食堂を応援しよう / 夏のボランティア体験

この情報紙は、区内のボランティアの方々に、宛名シール貼り、封入作業を行っていただき、発行しています。いつもご協力ありがとうございます。

【特集企画】

地域づくりの最前線 ～そのチャレンジ！応援します～



情報交換会の様子

wacca(わっか)は、中途視覚障害のある人たちが、それぞれの地域で過ごすための情報を当事者、家族、支援者と共有、交換する場です。今年度は、バリアフリー(BF)、ユニバーサルデザイン(UD)、インクルーシブデザイン(ID)を専門家や障害当事者から学び、誰もが住みよいまちづくりを考えます。

つながりを“wacca(わっか)”に

佐藤さん：団体名である“wacca(わっか)”には様々な意味があります。情報交換会のときに“輪っか”になって座ることがその一つ。視覚障害のある方にとって円形の並びは、どこに誰がいるのかを声で判断でき分かりやすいのです。

黒澤さん：情報交換会では、最初に自己紹介のようなかたちで、一人ひとり目の見え方を説明してもらいます。

「光と影が分かる」「中心が見えなくてまわりだけが見える」「右の端っこが見える」など。自身のことを説明できるのは生活する上で大事なことです。

佐藤さん：事故や糖尿病などの病気、加齢など、中途の視覚障害は様々。見えにくくなってどうしようと思っている方が、みんなの経験や情報を聞いて元気になり、それが人とのつながりの場になれば嬉しいです。

できることはたくさんあるじゃない！

みんなでまちづくりを考える

佐藤さん：30代の頃にベーチェット病の診断を受け、目に炎症が出てきたのは15年くらい前。徐々に見えなくなっていきました。その後、機能訓練を終えた2016年4月、「すまいる高井戸」で週に1～2日働くことになりましたが、杉並で視覚障害の人と知り合う方法が分からずにいました。ガイドさんに相談したところ、情報がなく困っている人はたくさんいることを聞いて、4～5人でも良いから区民センターなどで集まってみよう、ということから始まったのがwaccaを立ち上げるきっかけになっています。

黒澤さん：私は、2016年2月まで健常者として仕事をしていたのですが、「網膜色素変性症」という進行形の難病で、いよいよ仕事を続けるのが難しくなり、視覚障害者として第二の人生を踏み出しました。「おしゃべり会を始める人がいる」とガイドさんが教えてくれたことから、佐藤さんと会いました。ひとりで得られる情報は限られていますが、10人いれば10倍の情報が得られ、視覚障害があっても、できることはたくさんあると実感しています。

杉並ボランティアセンターでは、「地域福祉活動費助成金」を通して、地域で活動する団体を応援しています。今回はその中の一つ、チャレンジ応援助成団体※

「wacca」代表の佐藤 一人さんと黒澤 美花さんに活動の様子をうかがいました。※チャレンジ応援助成とは・・・新規の活動を応援するための助成金。地域の方々からの善意で集まった歳末たすけあい運動募金が原資になっています。

佐藤さん：waccaでは、今まで色々な見学会や体験会を行ってきました。昨年は、駅を利用する上で必要な情報を知る鉄道施設見学会、移動手段として自転車に乗ることの楽しさを感じるタンデム自転車の試乗体験など。

黒澤さん：今年度は、ユニバーサルデザインに関する勉強会を助成金で開催しています。例えば、弱視などで見えにくい人は、室内のコントラストや館内表示の色の使い方など、目で確認するための情報が必要です。ユニバーサルデザインは私たちの生活に関わっているものですが「なぜここに点字ブロックをつける必要があるのか」、様々な見え方の当事者の視点で学び、声をあげられる知識を得て、関心を持ってまちづくりに参加することを目指しています。



▲ タンデム自転車の試乗体験会

▲ 鉄道施設見学会

伝えてください、見えない見えづらい人の輪を

佐藤さん：waccaは視覚障害者だけでなく、どんな方にも関わってもらえるように入り口を開いています。昨年度は、コロナになってすぐの3月からZoomを取り入れた情報交換会を行いました。参加するためにガイドさんが見つからなくて困っている場合でも、スマホをタップするだけで参加できるようになり、様々な分野の方とつながる機会が増えました。

黒澤さん：視覚障害の有無にかかわらず、情報を得るまでに時間がかかる人はひきこもってしまうとも聞いたことがあります。中には、福祉サービスにつながる事ができない人も。身近にいる方に生の声を聞くのは貴重な情報になります。私たちが持っている知恵や工夫、生活感などをみんなで共有し、置いてけぼりにならない場所にしたいです。目の前に紙が置かれ、「wacca」と書かれていても気づかない。見える方や知っている方が伝えていただき、そういうまわりの方々ともっと交流できる機会をつくっていききたいです。私は「すまいる荻窪」で、佐藤さんは「すまいる高井戸」でピア相談員をしています。お気軽にお声がけください。

wacca 視覚障害者情報交換会・杉並 w a c c a



<https://twitter.com/wacca2016>



wacca2016kzt@gmail.com

杉並区社会福祉協議会 杉並ボランティアセンターは、様々な災害支援のボランティア活動と交流を行ってきました。この経緯を振り返ると共に、これからの備えや私たちができることを考えます。

第2回目となる今回は、杉並ボランティアセンター運営委員であり、「杉並災害ボランティアの会」代表 多田 邦晃さんからのメッセージです。

被災から6年、南相馬を知る

～最強の防災は人と人とのつながり～

2017年3月、杉並社協と杉並災害ボランティアの会（SSV）の協働でスタディーツアー「6年目を迎えた南相馬を知る」を開催しました。参加者はスタッフ含め46名。それまでの南相馬への支援交流活動は災害ボランティアセンター運営スタッフ養成講座内でのフィールドワーク、SSV有志での訪問がほとんどでした。私たちはもっと多くの人（杉並区民）に被災地（南相馬）のことを知ってもらいたいという想いでこのツアーを企画しました。

現地の方々との交流会をはじめ、津波被災地の視察、



▲ 当時市長の桜井さん(右)と多田さん(中央)



▲ 津波被災地視察の様子

2016年7月に避難指示解除準備区域から解除された小高駅前のフィールドワーク、ソーラーシェアリング（農業と再生可能エネルギーの共存）の視察など盛りだくさんのツアー（1泊2日）でした。初めて南相馬を訪れた参加者からは実際に現地を見て、被災者から直接話を聞いてよかったという感想をもらいました。

今はコロナ禍でなかなか南相馬を訪問することができませんがこれからも交流活動を続けていきたいと思えます。

（文・「杉並災害ボランティアの会」代表 多田 邦晃）

開催
します！

やってみよう！オンライン～Zoom編～

オンライン初心者向けのミニ体験会を開催します。

Zoomを団体の活動に活かしてみませんか！「Zoomって何？」「聞いたことはあるけど、今さら聞けない」そんな皆さんを応援します。実際にZoomをつないで話してみましょう♪

日時 8月14日(土) 10:00～11:00

会場 ウェルファーム杉並2階会議室2(天沼3-19-16)
またはご自宅からの参加

定員 会場:10名、オンライン:10名(1団体2名まで)

お問合せ 電話またはメールで、
杉並ボランティアセンターへ



前回の様子



ご報告

6月6日(日) チャレンジ！ボランティア特別企画を開催しました

地域大学との共同で開催した「ボランティアってなんだ？withコロナのボランティアを考える」。中学生から社会人まで、12名の方々にご参加いただきました。当初予定していた2月の開催延長を経てようやく叶い、ハンズオン！埼玉 代表の西川 正 氏をお迎えしました。

西川 氏が実際に活動している映像とともに話をうかがい、講座の後半では、「トークフォークダンス」を体験。参加者同士が輪になって交替しながら1分ずつおしゃべりし、自然と笑顔があふれる時間となりました。参加者からは「ボランティアのかたちは様々だと感じた」「ボランティアの始め方を少し理解できた」という声をいただきました。withコロナの中、人と人との関わりを大切に活動のヒントを教えてくださいました。

講師の
西川 正 氏



▲ トークフォークダンスの様子

★杉並・グルメ・さんぽ★

杉並育成園 すだちの里 すぎなみ
(今川12-14-12) TEL: 03-3396-7766

<http://ns2.ikuseikai-ky.or.jp/~ikusudachinosato/>



ボリューム満点！

すだちバーガー
300円

お問合せ

杉並ボランティアセンター

TEL: 03-5347-3939 FAX: 03-5347-2063

～ご家庭で使いきれない食材のご寄付を子ども食堂に～

子ども食堂は、みんなで一緒においしいご飯を食べることで、子どもたちの心と体を豊かにする、学校でもない、家庭でもない地域の居場所です。
コロナ禍の今、子育て家庭へお弁当や食材を提供する活動を中心に行っています。
そのため、お渡しする食材として、缶詰やレトルトなど、開けてすぐに食べられるものが必要となっています。

杉並の
子ども食堂を
応援しませんか

いただけると助かるもの ※一つで渡しやすいもの

レトルト食品（カレー・パスタソースなど）

缶詰（ツナ・サバ・コーンなど）

調味料（しょうゆ・だし・タレなど）

乾物（わかめ・きくらげ・春雨など）

袋菓子（ポテトチップス・クッキーなど
個包装のもの）



※賞味期限が2か月以上あり、明記されているもの
※未開封のもの
※商品説明が外国語のみでないもの
※他にも、杉並区が「フードドライブ」として食品の寄付を募っています。

お問合せ
ご寄付の受付

杉並子ども食堂ネットワーク事務局

杉並区社会福祉協議会 地域福祉推進係（ウェルファーム杉並 4階）

TEL:03-5347-1017 FAX:03-5347-2063 E-mail:sugi-kodomo@sugisyakyo.com



だれでもできる 夏のボランティア体験

この夏、新しいことにチャレンジしてみませんか？
杉並ボランティアセンターが皆さんの“はじめの一步”をサポートします！

「夏のボランティア体験2021」の受付を7/1～開始しました。その中で、ご自宅でもできるボランティアやボランティアセンターが通年行っている「切手整理ボランティア」夏限定の特別開催をご紹介します！

夏のボランティア体験2021

- お手紙ボランティア
- 施設へ送る飾りを作ろう

切手整理ボランティア

ご自宅でも
できる！

＼ お手紙 作品例 ／



＼ 飾り 作品例 ／



特別開催

まずは
お問合せください！

通常開催

7月21日（水） 14:00～16:00
8月18日（水） 14:00～16:00

7月29日（木） 10:00～12:00
8月20日（金） 10:00～12:00



杉並のボランティア情報紙「ボラン・て」

発行：社会福祉法人 杉並区社会福祉協議会
杉並ボランティアセンター

〒167-0032 杉並区天沼3-19-16 ウェルファーム杉並4階
TEL: 03-5347-3939 FAX: 03-5347-2063

メール: info@borasen.jp ホームページ: http://borasen.jp

うえるくん
杉並協会のイメージキャラクター

開所時間：火～土曜日
8:30～17:00

* 祝日・年末年始はお休みです。



情報紙「ボラン・て」は、次の区内各所にも置いてありますのでご利用ください。区役所・区民集会所・区民事務所・地域区民センター・一部のゆうゆう館・図書館・駅スタンド（区内 JR、地下鉄丸の内線など）・他